第２回　蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る市民懇談会　会議概要

■日　時　平成２７年９月１９日（土）　午前１０：００～午後１２：００

■場　所　市役所４階　第１委員会室

■出席者（敬称略）

委　員：秋山滋雄、内田浩、大矢純三、岡本和子、落合遥香、関克巳、鴇沢哲雄、
　　永沢映、長谷川浩司、林大樹、前野まゆみ、柚木香澄

賴髙英雄市長

事務局：川﨑文也（総務部長）、根津賢治（総務部次長兼政策企画室長）、
　　田熊純也（政策企画室室長補佐）、吉田圭介（政策企画室主事）、
　　森本悠理（政策企画室主事）
　　横山徹、佐久間萌（システム科学コンサルタンツ株式会社）

傍聴者：３名

■次　第

１．開会
２．会長あいさつ及び自己紹介
３．前回の会議概要について（確認）
４．議題
（１）（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略について
（２）その他
５．閉会

■内　容

【会長あいさつ】

【自己紹介】
　前回欠席の落合委員が自己紹介をした。

【前回の会議概要について】
　事務局より、前回の会議概要を確認した。
⇒会議概要についての異議はなく、公開することで承認した。

事務局より、前回質問のあった、市内在住の外国人数の推移について説明した。（資料「蕨市の人口推移（外国人の推移）」、第５９回簡易アンケート「国際交流・協力と多文化共生の推進について」（平成２６年度）埼玉県）

【議題】

（１）（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略について

事務局から、（仮称）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略（素案）について説明した。（資料１・２及び市民アンケート結果報告書（案）参照）その後、次のとおり質疑応答を行った。

委　員：　市民アンケートの自由意見はその通りと感じた。また、人口ビジョン及び総合戦略は、数値目標を明確に定めて簡潔によくまとまっていると思う。

いくつか感じた点を話したい。１つめ、近隣市や東京圏の他自治体と比べて付加価値を付けるために、蕨らしい要素を明確につくる必要がある。平均値的な内容よりも濃淡を付けた方がよい。濃淡をつけるため、６つのプロジェクトの順番も考えた方がよい。

２つめ、キラリわらび！子ども未来プロジェクトについて、保育園や小学校などのハード整備だけでなく、母親や子どもが交流できる場が不足している印象がある。今は、大型商業施設に集まるようだが、新住民も含めてもっと交流できる拠点が増えるとよい。また、最近は学校を開放して、地域と密接に連携したカリキュラムを行う事例が増えているので、子どもが地域でもっとつながりを持てるようなソフト面の取り組みができるとよい。

３つめ、ワクワクわらび！にぎわい創出プロジェクトについて、国の指針ではまち・ひと・しごと創生のメインとなる部分だが、蕨らしさが弱いと思う。例えば、中仙道蕨宿、成年式、城址公園など、いわゆる蕨の魂をシンボリックに入れてほしい。また、５年間の計画なのでソフト重視になっているが、ハードの面も考えていかなければならない。具体的には、歴史民俗資料館分館、市民会館、市役所について、民間の資産や市民ファンドを募って、立地や耐震性を含めて見直すなど、ハード面の検討も必要だ。

４つめ、住マイルわらび！暮らし快適プロジェクトについて、広域連携の視点を持つことが大事だ。蕨市は自活できる地域ではなくて、市内で暮らし、働き、消費する循環には限界がある。暮らし全体の利便性を考えると、近隣地域との連携も考える必要がある。

５つめ、わがまちわらび！市民が主役プロジェクトについて、「協働」に関する施策や事業はあるが、「市民参画」の要素が弱い。市民をもっと主役にするための参画の仕組みや仕掛けが足りないと思う。

最後に、人口を増やすことが、国のまち・ひと・しごと創生の基本的な考え方だと思うが、蕨市だけ人口が増えることは難しいだろう。ほどほどの人口を維持しつつ、蕨市の場合は地価を下げてより暮らしやすくすることも考えられる。人口を増やすまちづくりがすべてではないということも共有しておきたい。

委　員：　住マイルわらび！暮らし快適プロジェクトの具体的事業「ぷらっとわらびのルート拡充」について、錦町２丁目の保育園の近くにはバス停留所がなく、雨天の登園が大変そうなので、ぜひバス停留所を作ってほしい。

会　長：　本日はできるだけ懇談の時間をとりたいので、みなさんのご発言に関する事務局の回答などは、後ほどまとめてお願いしたい。

委　員：　先日の豪雨では、春日部市や越谷市では被害があったようだが、蕨市は大丈夫なのか。

また、三世代ふれあい家族住宅取得支援事業補助金交付に関心がある。蕨市は一世帯あたり人員が２人を割っていて、さらに単身世帯が増えているので、この事業は非常によいことだ。

委　員：　市民アンケートの自由意見に、外国の方にルールを守ってもらえないという意見があったが、外国語の書類の充実度には疑問を感じている。市民参画の一例として、リタイア世代のうち海外駐在経験のある方に、外国語の書類作成を依頼するような仕組みができればよいと思う。

委　員：　蕨市は外国人住民が多いとのことで、治安が悪いという話になりがちだが、おそらく統計的な結果ではなく、イメージの問題だろう。外国人からみれば、日本のルールが分からない、情報がないことが問題だろう。外国語の貼り紙をしても気づくとは限らないので、確実に相手にルールを知らせることが大事である。

委　員：　若い人を呼び込むために、大学生に、蕨市の商店街で活動できる場所を提供することや、国際交流に協力してもらうための補助をすることはどうか。

子育てについて、弊社は子育て中のパートが主力の職場で、子どもの熱などでシフトのやりくりが大変なのだが、母親の視点では、風邪の時や夜間の預け先がない、また子育てについて情報共有する場がないという意見があった。

弊社では、健康アップステーションを銀行敷地内に設置し、市民が集まれる場所を提供している。こうした、朝活、夜活、婚活などコミュニケーションの場が多くできないだろうか。

戸田市や川口市に人口を取られてしまうのであれば、例えば４０歳になって何らかのメリットがあれば、引き止められるかもしれない。ちなみに、市外に転出する年代が何歳頃なのかが気になっていて、４０歳では遅いのかもしれない。

コンパクトシティとしてもっとできることがあるはずだ。ＬＥＤや防犯カメ

ラの密度日本一などといった特徴を持たせることが考えられる。蕨ＣＡＴＶは、人口密度が高いからこそ、採算が合って存続できているのではないか。防犯面を含めて、コンパクトだからこそできることはないのか。

２４時間化３６５日が一つのテーマだと思う。これは我が銀行だけの取り組みで、窓口が長く開いているのは採算がよいわけでないが、やってよかったと思っているので、他と差別化するための一つの方法だと思う。

居住地を決める大きな要素は家賃なので、この点で強みがあればよい。

委　員:　大学の授業で、商店街の活性化をテーマに、親子参加の街歩きをしたところ、商店街にはベビーカーを置く場所がない、おむつ換えする場所がないため、大型商業施設に行くと聞いた。集会所のような場所で、子どもだけでなく、高齢者もいて、地域で子どもたちを育てていくという考え方で集まれる場所を商店街につくれば、人が集まるのではないか。

市民アンケートの自由意見に、学生がボランティアをやりたいのにできないという意見があった。蕨市では合宿通学、三市青少年の船、児童館ボランティアなどに学生ボランティアが参加していて、人手不足のためＷＩＣＡもスタッフとして呼ばれる。ボランティアをしたい学生に伝わっていないようなので、もっと知ってもらえるとよい。私自身は、市の国際交流事業に参加して楽しい思いができたから恩返しのためにＷＩＣＡに入って活動したので、もっと若者に蕨市に関わって、好きになってもらいたい。

委　員：　前回の懇談会で、蕨市の人口構造について、若い人は入ってくるが、子育て世代が出て行っており、これは住環境の問題が大きいという確認をした。私が引っ越してきて驚いたのは、近所に三世代住宅が複数あったことで、都市部は地価が高いため、都市的な住まい方だと感じたので、２～３世代住宅を増やすことは、蕨市の人口構造からみて、一定の効果があると考える。

委　員：　外国人について、犯罪を起こす、ごみ捨てのマナーが悪いというのはイメージが先走っていると感じる。私は市の国際交流事業に携わったり、大学で外国人と接する機会が多いので、同じ市民で、話してもいないのにそう感じるのは寂しいと思う。蕨市とＷＩＣＡで実施する「みんなの広場」という年１回のイベントを通して、市在住の外国人と日本人の交流のきっかけづくりをしているが、知らない人が多いようだ。県内でも外国人住民が多いまちなので、市民が外国の方と触れ合う機会があれば、マナーを教えることもできるし、知り合うことで犯罪の抑止にもつながるのではないか。市全体で年１回実施するのではなく、地区ごとに実施するなど、もっと機会を増やせば、日本人も外国人もお互いに意識が変わると思う。

委　員：　私たち町会でも、様々なイベントを知らせて、外国人の参加を呼びかけようと話し合っている。ゴミ出しマナーなどについても、コミュニケーションを図

りながら知らせていきたいと考えている。以前から祭りに参加してくれている外国の方とは、コミュニケーションを取れており、こういう方を増やしていくことが大事だと思っている。

また、町会では安全安心を重視している。先日の豪雨は蕨市も他人事ではない。今後どこで起こるか分からないので、洪水マップを作成する、備蓄倉庫は２階以上に設置するなど、身近なところから一つずつチェックしなければならない。蕨市は密集地なので、一番の弱みは火事だ。感震ブレーカーを全戸設置するなど、一点集中で、日本一安全な狭いまちなど特徴を打ち出していかなければ、人口はより良い方へ出て行ってしまうだろう。

戦略内容はどれも大切だと認識しているが、全国をみても人口を増やすのは難しいので、減らすことのないように、差別化することで、若い人も安心して暮らせるようにした方がよい。

委　員：　イキイキわらび！健康密度日本一プロジェクトについて、地域包括ケアシステムに関連して、最近重視されている健康寿命は、誰の介助支援も無く平均寿命を全うできるようにしていこうという考え方だ。蕨市は高齢者の福祉施設や支援機能が弱いので、この健康密度日本一プロジェクトをより前向きな内容として、リタイア後に地域で働いたり、活躍することで健康寿命を延ばすことを目指し、高齢化をプラスと捉えて、高齢化のモデル地域とするよう重点化してはどうか。これは、先ほどの市民参画にも関連することだ。

また、災害時の広域の防災協定や、大学のゼミのフィールドワーク先とする協定を結んだり、金融機関と創業支援の協定を結ぶなど、市の予算だけでは足りない部分を、協定で補完できる方法を考えてもらいたい。

最後に、この戦略を誰が行うのかといえば、市の各部署では難しいだろう。蕨市には経済振興の部署がないので、総合戦略を実行する部隊がないと絵に描いた餅にならないか心配なので、実行するための体制作りが必要ではないか。

委　員：　子育てについて、市民アンケートの自由意見に、保育園の開園時間が短いという意見があるが、小学生も同様で、夜に子どもだけという家庭もあるだろう。フルタイムで働く親は、学童保育の終了時間より遅いと思うので、小学生が夜まで預かってもらえる施設があってもよい。学童保育とは別に、小学生を夜まで預かる事例もあるようだ。

委　員：　今の意見に関連して、報道番組で子ども食堂を知った。子どもは約３００円で夕食をとれる場所で、食堂の人も自分の子のようにかわいがってくれていたので、蕨市にもそういう施設があればよい。

委　員：　人口について、社人研推計では平成５２年に５万６千人のところ、７万１千人を維持するという目標はすばらしいと思うが、具体的に何をするのか分かりにくいので、明確にする必要がある。住民サービスで独自性を出すのは難しく、

財源にも限りがあるので、地域連携で相互乗り入れできるようなサービスを模索すべきだ。

ワクワクわらび！にぎわい創出プロジェクトについて、雇用創出に触れていないのが気にかかる。また、本文中にある事業者の経営安定をいかに図るのかを、具体的に打ち出さなければ難しいと思う。

６つのプロジェクトのうちどれを重点的にやっていくのかを明確にした方がよい。

創業支援について、目標値は商工会議所の実績に基づいたものだと思うが、参考として伝えると、平成２５年度は１６件、昨年度は１１件の創業件数だった。現在、経済産業省に、産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画を提出して、来月に認定を受けられる見込みで、これにより国から補助などを受けられることになる。現状では、蕨市で創業するメリットが無いために、取りこぼしている面あるので、市の担当課と話して進めているものだ。

計画をつくるだけでなく、どう運用するかが問題だ。創業に伴う制度融資がないので、融資の際の利子補給などを具体的に入れないと難しいだろう。

委　員：　子ども食堂に関連して、教育格差の解消のためにも、ワンコイン寺子屋などがあってもよいと思う。

保育園や学童保育の時間延長や施設の増設という意見もあるが、私自身は子育てしていて、保護者の負担を減らすことも大切だが、預けられる子どもの負担を減らすことも考えて、施設を増やすだけでなく色々な選択肢があってもよいと思う。幼い子どもが人のぬくもりの中で育つことが一番良いので、ファミリーサポートなどを利用して、手間はかかっても、保育園の送迎を人に頼むことなども考えられる。ともかく親が働き続けやすくしてもらえればよいと思う。

学校土曜塾を昨年度から全小学校で実施しているが、今後も続けるのか。一部の熱心な親向けのサービスとなっていると感じている。他市や他県でも土曜授業が復活している事例があるので、検討してほしい。

会　長：　これまでの委員のみなさんの意見に対して、事務局から現段階で回答できるものなどあればお願いしたい。

事務局：　市の最上位計画として、平成２６年度から１０年間の「コンパクトシティ蕨将来ビジョン」があり、将来ビジョンに基づく平成２７年度から５年間の「総合戦略」を現在議論している。国の基本的な考え方としては、出生率の向上と子育て世代の定住促進がある。本日のみなさんのご意見を聞いて、いかに蕨らしさを出すかがキーポイントと感じた。様々な貴重なご意見をいただいたが、すべてを盛り込むと総花的になってしまうので難しいと感じる。

市の雇用創出が弱いという意見については、蕨の特性からみても、企業誘致はなかなか難しいので、現時点では創業支援を予定しているが、ご指摘の点は

強化していかねばと考えている。学校土曜塾については、文科省の方針とも関連するが、基本的には市独自の施策として続ける。保育時間の延長など、色々なサービスが考えられるが、財源が必要で、今後の国からの財源も関係することだ。防災については、防災に関する個別計画をもとに進める。

蕨らしさを出しつつ、身の丈にあった施策を、市民のみなさまの参画を得ながら進めていくことが現実的だろう。本日いただいた様々なご意見は、庁内の会議においても図り、引き続き参考としたい。本日回答できなかった点は、会議概要を確認して、次回に回答したい。

事務局：　三世代ふれあい家族住宅取得支援事業の概要を説明すると、市内に５年以上在住の祖父母世代の子どもで１８歳未満の子のいる世帯が、市内に住宅を購入する場合、１０万円を補助する。また、家を建て替える場合、３０万円を補助する。さらに建て替える家が新耐震基準以前の建物の場合、２０万円加算し、最大５０万円支援するという事業である。

会　長：　住むことや創業することを決めるきっかけにもなるので、プランのメリハリやアピールのしかた、市が力を入れる点の見せ方などに工夫が必要だろう。

委　員：　色々な意見を聞いていて、子ども食堂や創業支援の場所としては、県内と比べて多くある商店街がよいのではないか。空き店舗などスペースはある。今回の計画に入れるか否かに限らず、継続的に検討していければよい。市役所だけでは無理だと思うので、ＮＰＯや民間事業所などと協力して、蕨市が全国に先駆けて取り組んでもよいのではないか。

委　員：　一例として話すと、以前、空き店舗の使用方法の相談を受けたことがあり、ミーティングで使えるような場所、子ども連れの通行人がおむつ換えできる場所などとするよう提案したことがある。

委　員：　プレゼンテーションの仕方に関わると思うが、蕨らしさには具体性が大事だ。例えば、ワクワクわらび！にぎわい創出プロジェクトのうち、わらびりんごの具体的なストーリーをつくって蕨市のブランドとしていくこと重要だ。雇用や産業振興に結びつくことなので、ぜひ具体的に考えてほしい。

（２）その他

事務局から、今後の懇談会の開催予定について説明した。

⇒第３回までの日程について、次のとおり決定した。

第３回：平成２７年１０月１７日（土）午前１０時から

以上